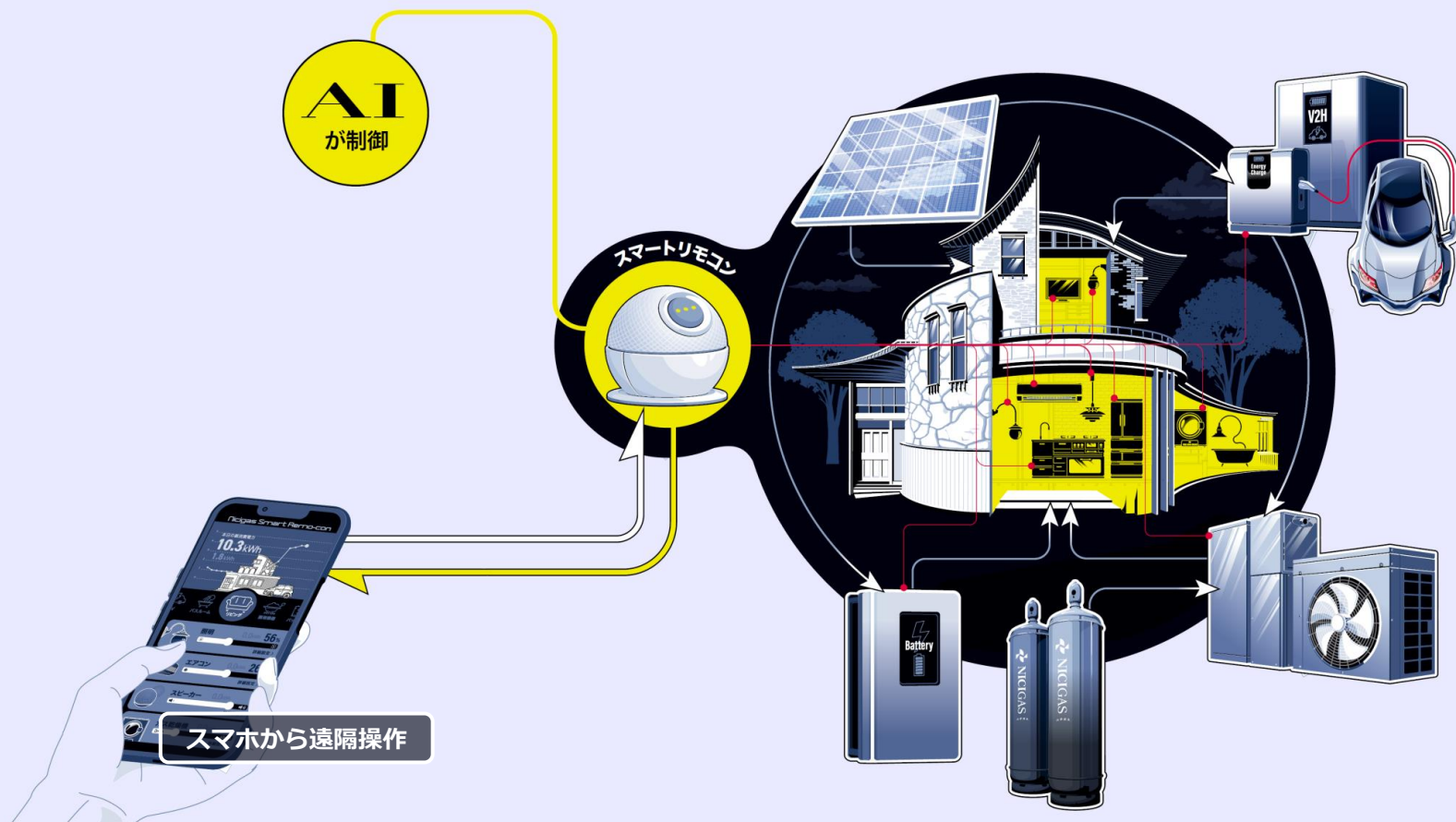


2024年3月期 第1四半期 決算説明資料

2023年7月27日 日本瓦斯株式会社



決算のポイント① 24/3期1Q実績(計画比)と通期見通し

1Q営業利益ほぼ計画通り、粗利は販売量未達が影響も販管費計画以下。通期ほぼ変更ナシ

■ 1Q営業利益ほぼ計画通り。高気温等の影響でガス・電気共に販売量計画未達、粗利に影響。販管費は計画以下、顧客獲得費等で計画下回った。通期の営業利益計画は、ほぼ変更ナシ。

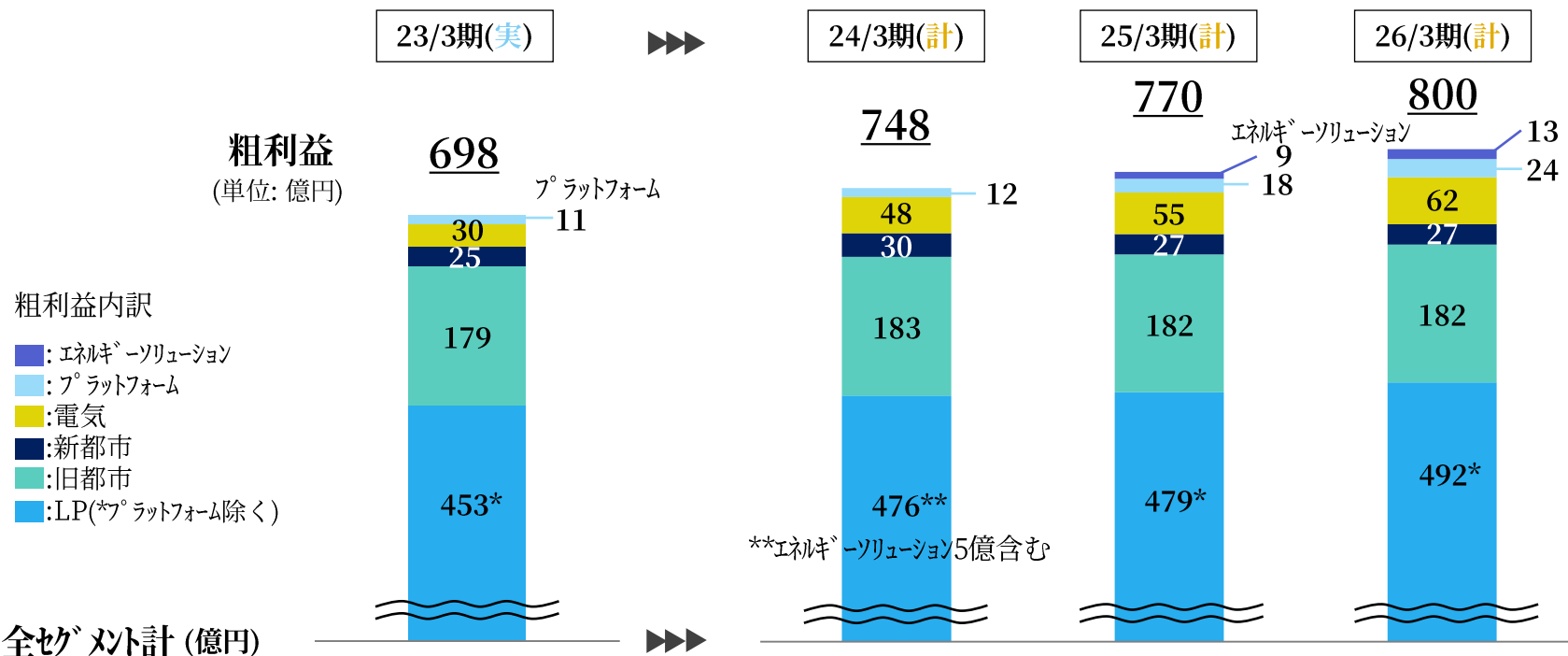
(億円)	24/3期(1Q/4-6月)		24/3期 通期計画		ポイント
	計画(4/27公表)	実績	(4/27公表) 見直前	(7/27公表) 見直後	
粗利益	179	173	747	748	
LPガス	118	112	487	488	<ul style="list-style-type: none"> 1Q販売量は家庭用が気温等の影響大きく受けて計画届かず 通期計画はほぼ変えず、CP価格低下で利幅拡大を想定
電気	5	7.5	45	48	<ul style="list-style-type: none"> 1Q利幅が計画を上回った(詳細P.9)
都市ガス(旧都市+新都市合計)	56	54	216	213	<ul style="list-style-type: none"> 気温等の影響で1Q家庭用販売量が計画届かず。スライド^①のプラス影響も想定比で少(販売量出ず)。 通期は、2Qスライド^①影響をプラスで新たに織り込む
① <u>内、スライドタイムラグ</u>	<u>+7.3</u>	<u>+6.3</u>	<u>+7.3</u>	<u>+8.1</u>	
販管費	138	133	560	560	<ul style="list-style-type: none"> 顧客獲得費の他、販売量伸びずボンバ[®]運搬費が計画を下回った
② 営業利益	41	40	187	188*	<ul style="list-style-type: none"> 2Qスライド^①影響の織り込み分を上方修正(通期: +7.3億→+8.1億) 短信は切り捨て表記のため、187億と記載
②-① スライド ^① 除き営業利益	<u>34</u>	<u>34</u>	<u>180</u>	<u>180</u>	<ul style="list-style-type: none"> スライド^①除く 180億を重視
純利益	29	29	110	110	<ul style="list-style-type: none"> 24/3期: 再編費用▲25億を特別損失に計上する計画。再編費用除きでは128億

決算のポイント② 3ヶ年計画(24/3~26/3期) 利益の詳細

26/3期営業利益220億、純利益150億を達成する。ROE計画は25/3期20%、26/3期22%

■顧客増で、既存エネルギー小売事業であるLPと電気の粗利を拡大する。更に組織再編を通じてエネルギーソリューションとプラットフォーム事業を本格化させる。26/3期に向け、24/3期1Qは計画線で進捗。

※25/3期と26/3期は4/27時点から変更分



全セグメント計 (億円)

粗利益	698	748	770	800
販管費	546	560	570	580
営業利益	152	188	200	220
純利益	106	110	140	150
ROE	15%	15%	20%	22%

24/3期(計):
純利益110億円、
ROE15%は再編
の特損見込▲25億
を負担後の数字

決算のポイント③ 3ヶ年計画 利益計画の前提

LPと電気が顧客数増で増益。プラットフォームとエネルギーソリューションは25/3期からの利益拡大見込む

★: 2023/4/27公表からアップデートした数値。 ※25/3期と26/3期は4/27時点から変更

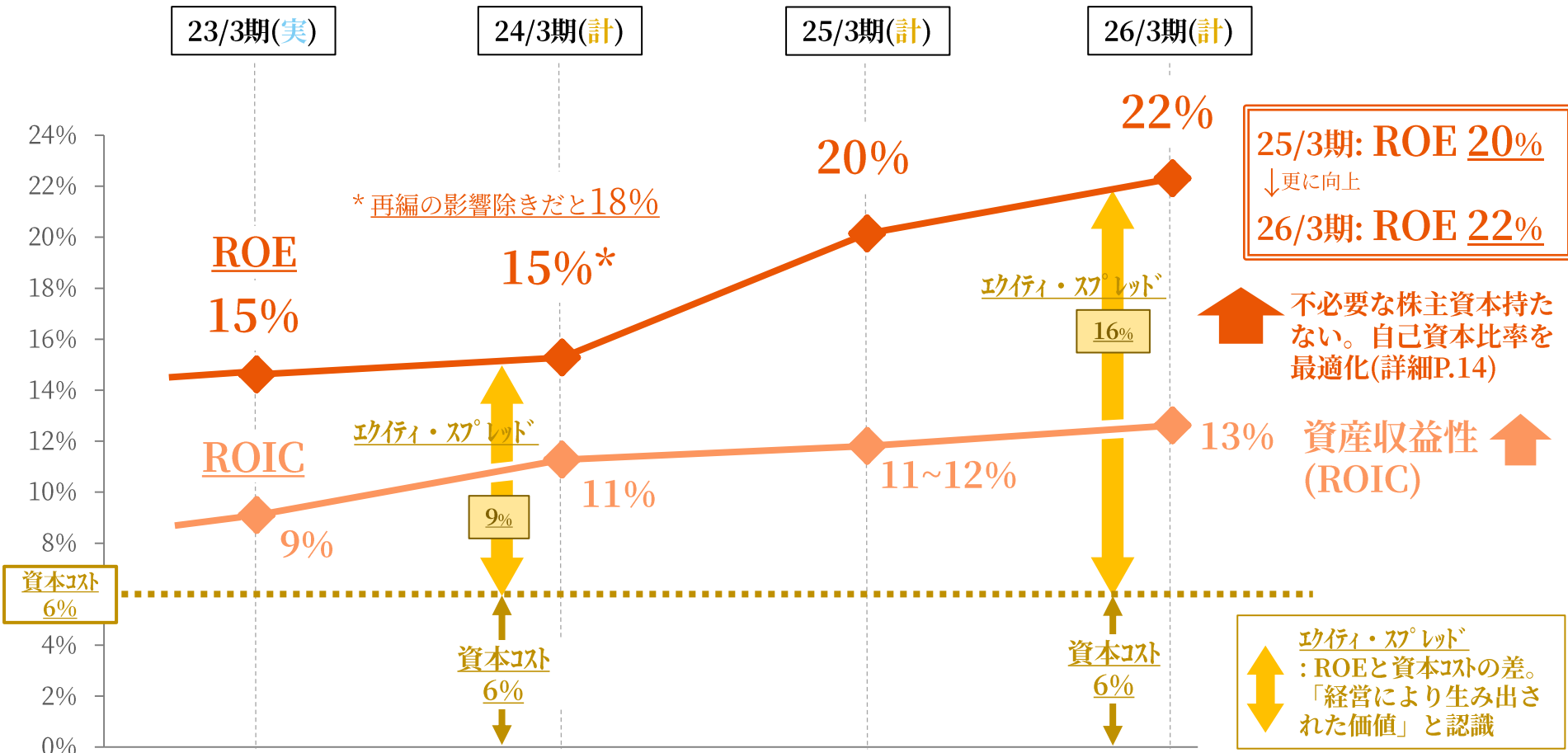
(億円)	23/3期(実)	24/3期(計)	25/3期(計)	26/3期(計)	コメント
粗利(全セグメント合計)	698	★ 748	770	800	
LPガス (機器工事含みプラットフォーム除く)	453	★ 476	479	492	・プラットフォーム除く。24/3期はエネルギーソリューション5億含む
期末顧客数(千件) (括弧内前期比)	972	1,012(+40)	1,052(+40)	1,092(+40)	・利益計画への反映は慎重に見積もる
販売量(千トン) 家庭用/業務用	186/121	★182/118	190/120	195/120	・気温予想変化等踏まえ、24/3期家庭用▲5千トン減らし見直す(187千トン→182千トン)
家庭用利幅(円/kg)	212	★220+α程度	220	220	・220円/kgを適正水準とする。24/3期:220+α円を見込む
旧都市ガス (機器工事含む)	179	★ 183	182	182	・24/3期は1-2Qのライドプラス影響(+5.4億)を含む
販売量(千トン) 家庭用・業務用計	290	★ 286	289	289	・気温予想変化等踏まえ、24/3期▲3千トン減らし見直す(289千トン→286千トン)
新都市ガス (機器工事含む)	25	★ 30	27	27	・24/3期は1-2Qのライドプラス影響(+2.8億)を含む
販売量(千トン) 家庭用・業務用計	89	★ 86	87	87	
電気	30	★ 48	55	62	
期末顧客数(千件) (括弧内前期比)	320	420(+100)	520(+100)	620(+100)	・利益計画への反映は慎重に見積もる
販売量(GWh)	1,297	★ 1,511	1,700	1,920	
利幅(円/kWh)	2.3	★ 3.1	3.2	3.2	・23/7月に料金メニューを改定。1Q利幅は想定上回った
プラットフォーム	11	12	18	24	・詳細はP.12 (*25/3期からセグメント内容の変更検討)
エネルギーソリューション	-	[5]	9	13	・24/3期の計画(5億)はLPガスセグメント(476億)に含む
・ハイブリッド 給湯器 ・太陽光、蓄電池、V2H	・1.2千台 ・33台	・3千台 ・850台	・5千台 ・1,550台	・8千台 ・2,200台	・組織再編で営業強化、機器販売から開始。25/3期からエネルギー最適利用や電力卸売市場取引で収益化へ

決算のポイント④ ROIC・ROEの計画

25/3期にROE20%、26/3期にROE22%達成する。ROIC高め、不必要な株主資本持たない

■ ROE目標に変更あり。25/3期: 20%、26/3期: 22%に設定する。高収益資産を積み上げてROICを高めながら3年間で自己資本比率の最適化(23/3期:48%→26/3期:40%)を進め、ROE向上を追求する。

※24/3期~26/3期の数値は4/27時点から変更あり

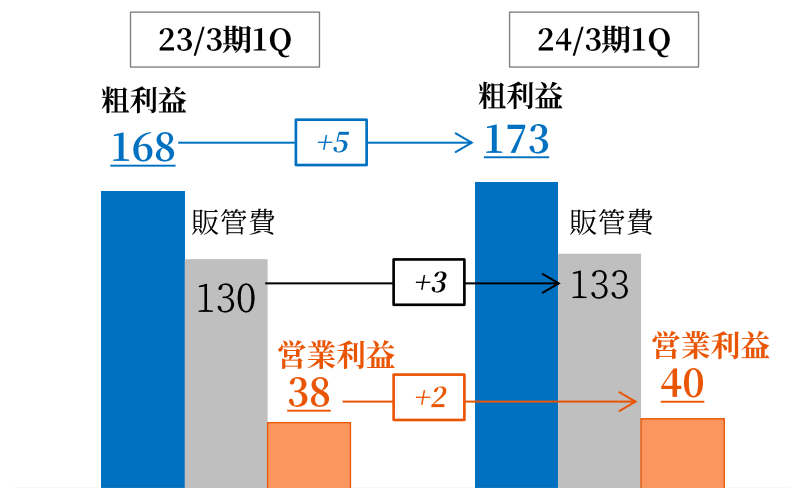


決算の実績① サマリー(23/4-23/6月) (前期比)

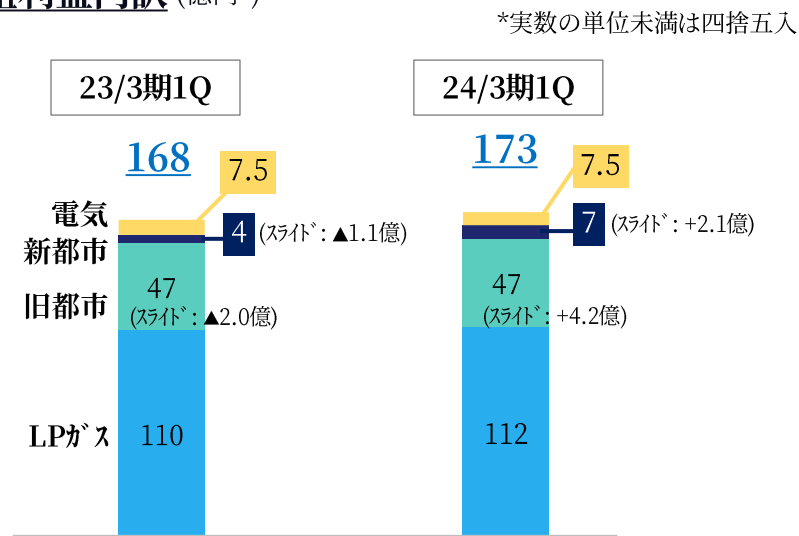
LPと都市ガスが伸びて営業増益。高気温等の影響でガス・電気共に家庭用販売量は大幅減

■ 営業増益(前期比+2億)。粗利はLPが利幅拡大で伸び、都市ガスがスライド影響プラスで伸びた。家庭用ガスと電気は販売量が大幅減、高気温等の影響大。販管費は同+3億、IT投資や給与積み増した。

粗利益/販管費/営業利益 (億円*)



粗利益内訳 (億円*)



全項目合計 (億円)	23/3期 (1Q/4-6月)	24/3期 (1Q/4-6月)	増減	ポイント
粗利益	168	173	+5	・ LPで前期比+2億、利幅拡大。都市ガスで同+3億、スライド影響プラスに転じた
販管費	130	133	+3	・ 24/3期1Qは計画以下。IT投資や給与積み増し、全体はDXで生産性上げ抑制
営業利益	38	40	+2	
販売量(千トン) LPガス	74	70	▲4	・ 家庭用: 高気温等の影響で単位消費量減 ・ 業務用: 前期並。新都市で官公庁向け増、食品や飲料業等の需要伸びず
旧都市ガス	70	67	▲3	
新都市ガス	24	22	▲2	
電気(GWh)	252	258	+6	・ 前期比微増。顧客増も単位消費量が大幅減

決算の実績② 販管費明細

1Qは計画下回った。通期560億変更が、IT費用と人件費積み増し、全体はDXで伸び抑制

- 1Qは計画下回った。顧客獲得費やポンプ運搬費が計画以下。
- 通期計画560億円(前期比+14億)は変更が。IT費用と人件費を積み増し、DXで全体の伸びを抑制、25/3期と26/3期は前期比+10億に抑える。

*実数の単位未満は端数処理

販管費明細 (億円)	24/3期 通期計		24/3期 (1Q実)	進捗 *対見直後	ポイント	23/3期	
	見直前	見直後				(通期実)	(1Q実)
1. 人件費	147	147	34	23%	・ 24/3期の給与昇給率は4%。従業員あたり給与を増やす	140	33
2. 減価償却費 ^(*)	86	86	20	23%		86	21
3. 顧客獲得費用 ^(**)	75	73	17	23%	・ 6月のLP新規契約獲得が通常比半減、訪問営業停止の影響	77	18
4. ガス関連機材等	35	35	8	23%		31	7
5. ガスポンプ運搬費	30	30	7	23%	・ 1Qは高温等の影響でガス販売量伸びず、ポンプ運搬費も前期比で減	33	8
6. IT費用	43	43	11	26%	・ 配送や保安向け新システム等、生産性向上とプラットフォーム事業拡大への投資を積み増す	37	8
7. 保安・検針費等	23	23	6	26%		23	6
8. 租税公課・事業税	20	20	5	25%		19	5
9. 修繕費用 ^(***)	19	19	4	21%	・ ポンプ耐圧検査費用が増、自社(夢の絆)での検査を増やした。使用期間を延ばす	16	3
10. 手数料等	13	14	4	29%	・ 1Qで電気料金改定に係るお知らせを送付(+0.5億)	13	4
11. 広告宣伝費	8	8	2	25%	・ 24/3期はローカルコミュニティに重点を置いた宣伝を行う	9	1
12. 通信費 ^(****)	12	12	3	25%		11	3
13. 旅費交通費	6	6	1	17%		6	2
14. コールセンター	5	5	1	20%		5	1
15. 託送料	6	6	2	33%		6	2
16. その他	32	33	8	24%	・ 24/3期はのれん償却が減(▲3億)	34	8
合計	560	560	133	24%		546	130

(*) IT関連の償却は「6. IT費用」、のれんの償却は「16. その他」に計上 (**) 顧客獲得費用はLPガス、都市ガス、電気に係る営業費用とサービスの合計

(***) ポンプや機材等の修繕費、ポンプ検査費用。検査費用は他社委託分は“手数料等”、自社実施分は“修繕費用”に含む (****) 顧客とのコミュニケーション費用、スパース並通信費用

決算の実績③ LPガス事業(前期比)

粗利は前期比+2億。家庭用が販売量減も利幅拡大して増、業務用は減。1Q純増は5千件

■粗利は前期比+2億。家庭用粗利増、利幅が拡大、販売量は高気温等の影響で大幅減。業務用粗利は減、逆スライド[※]影響で利幅が縮小。1Q(4-6月)顧客純増は5千件(前期: 8千件)、6月がほぼゼロ。訪問営業停止(5/25~8/24)影響で6月新規獲得が通常比で半減。既存顧客との関係強化、解約防止に注力中。

*実数の単位未満は端数処理。 *増減は億円表示処理後で算出

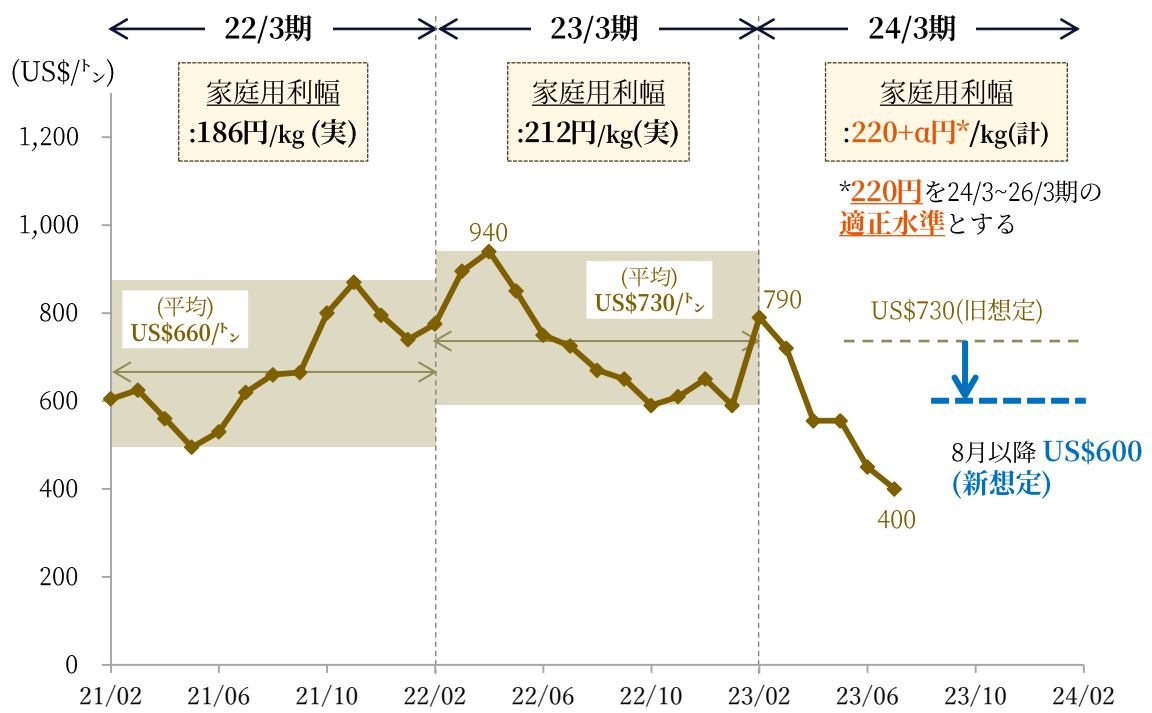
LPガス(億円)	23/3期 (1Q/4-6月)	24/3期 (1Q/4-6月)	増減	ポイント	24/3期 通期計画
粗利益	110	112	+2		488
内、ガス	101	103	+2		448
kgあたり(家庭用+業務用)	136円	147円	+11円	・利幅: 家庭用で拡大、原料が下げ局面。業務用で縮小、逆スライド [※] (家庭用+業務用)影響(※原料下げ局面で利益にマイナス影響)	149円
内、プラットフォーム(PF)	2.9	2.9	+0	・1Q粗利は想定線。スペース蛍と保安プラットフォームに注力(詳細P.12)	12
内、機器工事・その他	6	6	+0	・1Q(4-6月)はハイブリッド [※] 給湯器は約370台販売(前期比で約2倍) ・機器不足はメーカー各社の納品タイミング [※] ほぼ正常化	27
お客様数(千件)	954	977	+23		1,012
純増数(千件)	8	5	▲3	・23/6月の純増ほぼゼロ。訪問営業停止の影響(営業再開8月25日。グループ会社は営業停止対象外。電話営業はニチガス [※] 含め継続中)	40
ガス販売量(千トン)	74	70	▲4		300
家庭用	44	42	▲2	・高気温の影響等で単位消費量が伸びず	182
業務用	29	28	▲1	・商業施設や温浴施設向けが伸びず	118

LPガス原料価格(CP)の推移

23/2月以降、CP下げ局面が継続。8月以降の想定をUS\$730→600/トンに見直す

■ CPは23/2月のUS\$790/トン以降、下げ局面が継続。7月はUS\$400/トン、2020年11月(コロナ禍)以降で最安水準となった。この動きを踏まえ、8月以降の想定をUS\$730→US\$600/トンに見直す。為替想定は、135円→145円/US\$に見直す。24/3~26/3期の家庭用利幅は、220円/kg程度を適正水準とする。

LPガス原料価格(CP)の推移



為替相場(TTS)



(US\$/トン)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2021年	550	605	625	560	495	530	620	660	665	800	870	795
2022年	740	775	895	940	850	750	725	670	650	590	610	650
2023年	590	790	720	555	555	450	400					

*ハイライトは23/3期1Qの原価
 * CPは概ね2~3ヶ月後の原価を構成
 * ほぼタイムラグなく販売価格改定可能
 (商品の性質上、対象外もあり)

決算の実績④ 電気事業(前期比)

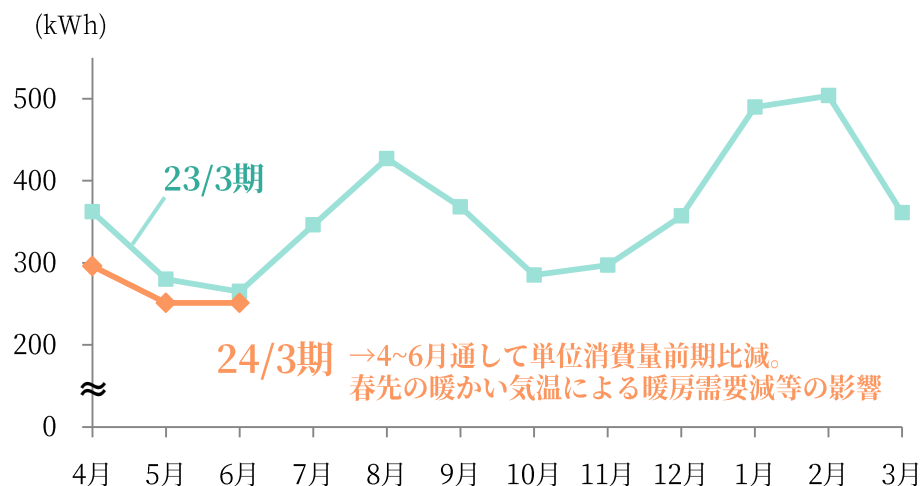
粗利は前期比横ばい。気温等の影響で単位消費量が大幅減、利幅は計画を上回った

■粗利前期比横ばい。気温等の影響で単位消費量が大幅減、顧客は前期比増も販売量十分伸びず。1Q利幅は前期並み、計画比では上回った。電源コスト値上がり踏まえ、7月利用(8月検針)分から料金を改定する。電源は相対での安定調達を継続。

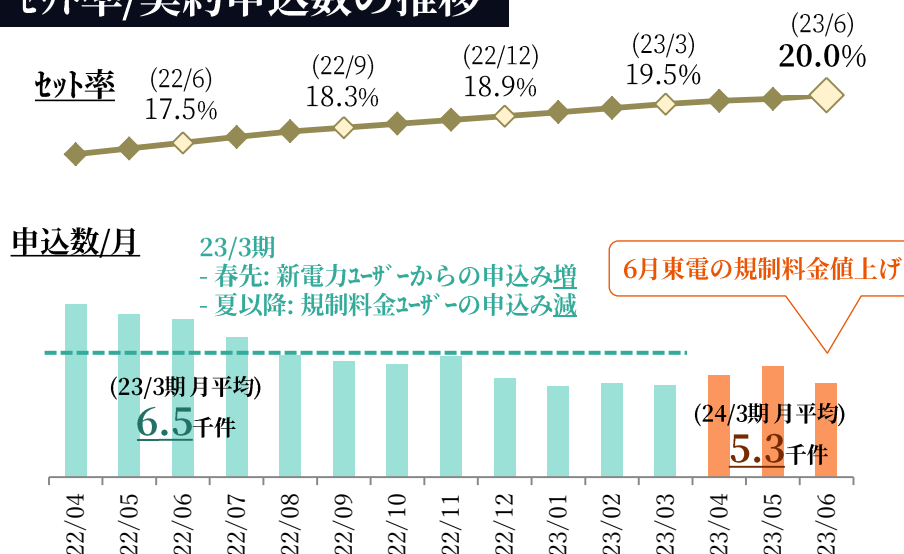
*実数の単位未満は端数処理。 *増減は億円表示処理後で算出

電気	23/3期 (1Q/4-6月)	24/3期 (1Q/4-6月)	増減	ポイント	24/3期 通期計画
粗利益(億円)	7.5	7.5	+0	・1Q利幅は計画上回り、前期並み。7月利用分から料金改定、通期は23/3期(実):2.3円に対し、24/3期:3.1円を計画	48
kWhあたり	3.0円	2.9円	▲0.1円		3.1円
お客様数(千件)	292	327	+35	・電気セト率: 20.0%達成。6月に東電の規制料金値上げで当社価格競争力が回復。新規申込み増に繋げる	420
純増数(千件)	13	7	▲6		100
電気販売量(GWh)	252	258	+6	・顧客数拡大で伸長。単位消費量は前期比で大幅減、気温の影響等受けた	1,511

平均月間使用量(kWh)



セト率/契約申込数の推移



決算の実績⑤ 都市ガス事業(前期比)

粗利増益。スライ`影響プラスに転じ利幅拡大、販売量は高気温等の影響受け家庭用が大幅減

■粗利は前期比+3億。スライ`影響プラスで利幅拡大。販売量は高気温等の影響で旧・新ともに家庭用が大幅減、新都市は官公庁向け等が増。1Q(4-6月)純増は旧都市+1.1千件、新都市▲11千件。

*実数の単位未満は端数処理。 *増減は億円表示処理後で算出

旧都市ガス(億円)	23/3期 (1Q/4-6月)	24/3期 (1Q/4-6月)	増減	ポイント	24/3期 通期計画
粗利益	47	47	+0		183
内、ガス	42	42	+0		161
内、スライ`タイムラグ	内、▲2.0	+4.2	+6.2	・原料下げ局面が継続。1Q(4-6月)影響: +4.2億(計画+4.5億) ・24/3期計画に、新たに2Q(7-9月)プラス影響+1.2億を織り込む	内、+5.4
内、託送収益等	3	3	+0		11
内、機器・工事等	2	2	+0		11
お客様数(千件)/純増数(千件)	419/▲0.3	415/+1.1	▲4/+1.4	・1Q(4-6月)純増: +1.1千件。旧都市の電気セット率: 20.7%	421/+7
ガス販売量(千トン)	70	67	▲3	・家庭用: 高気温の影響等で単位消費量伸びず	286
家庭用/業務用	29/41	26/41	▲3/+0	・業務用: 食品や飲料業の減を医療や鉄鋼関連等の増がカバー	107/179

新都市ガス(億円)	23/3期 (1Q/4-6月)	24/3期 (1Q/4-6月)	増減	ポイント	24/3期 通期計画
粗利益	4	7	+3		30
内、ガス	4	7	+3		28
内、スライ`タイムラグ	内、▲1.1	+2.1	+3.2	・原料下げ局面が継続。1Q(4-6月)影響: +2.1億(計画+2.8億) ・24/3期計画に、新たに2Q(7-9月)プラス影響+0.7億を織り込む	内、+2.8
内、機器・工事等	0.3	0.4	+0.1		2
お客様数(千件)/純増数(千件)	292/▲10	241/▲11	▲51/▲1	・1Q(4-6月)純増: ▲11千件。新都市の電気セット率: 17.4%	273/+20
ガス販売量(千トン)	24	22	▲2	・家庭用: 高気温の影響等で単位消費量伸びず。顧客減も影響	86
家庭用/業務用	16/8	13/9	▲3/+1	・業務用: 官公庁向け等(入札案件)が増えた	47/39

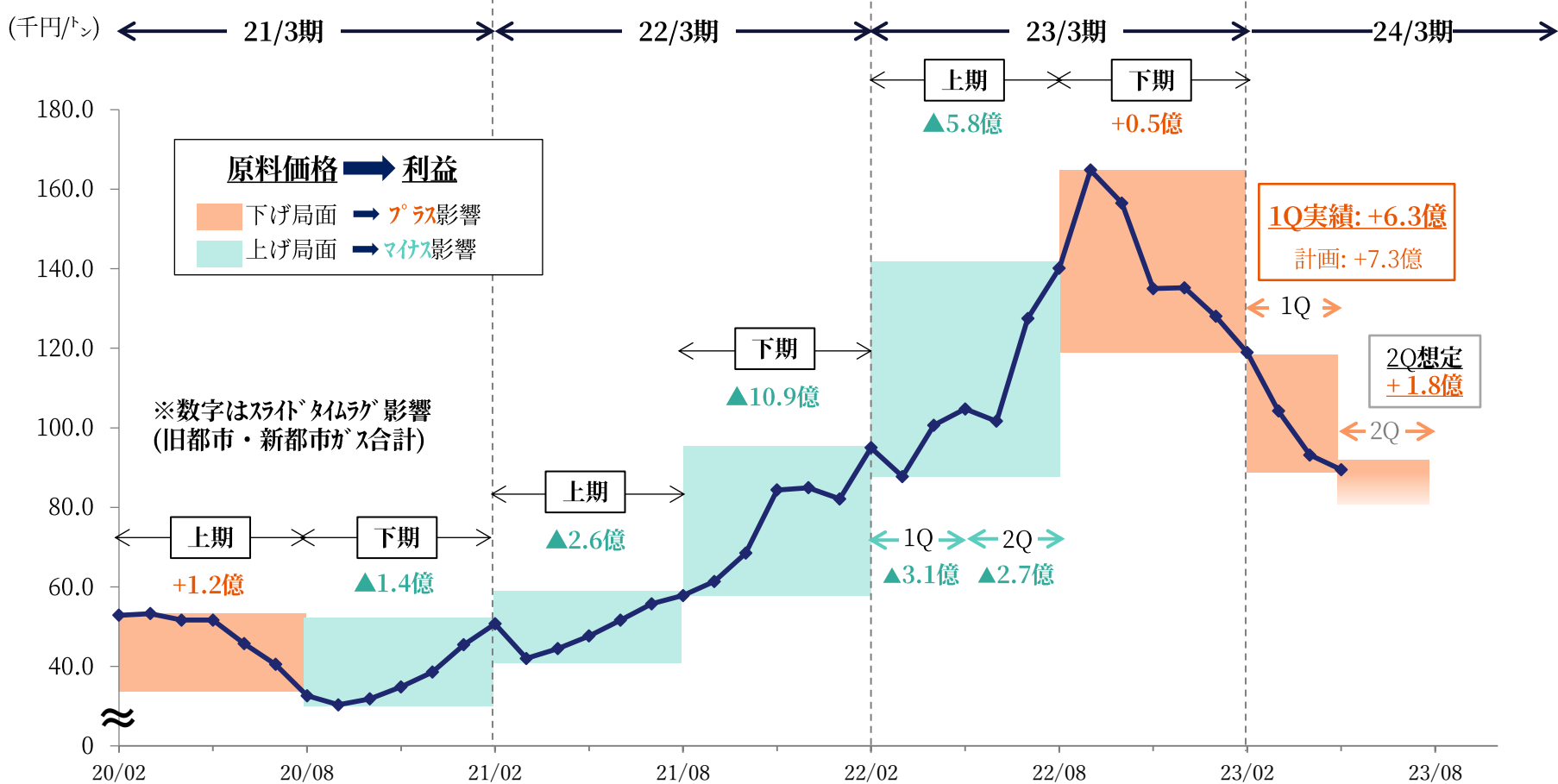
都市ガス原料費調整(スライドタイムラグ)の影響

1Q(4-6月)スライド影響: +6.3億。24/3期計画に、新たに2Q(7-9月)影響: +1.8億を織り込む

- 1Q(4-6月) 影響+6.3億、原料下げ局面継続。計画比で販売量が少、プラス影響も計画(+7.3億)比で少。
- 2Q(7-9月)のスライド影響: +1.8億を見込む。この2Qの影響を、新たに24/3期利益計画に織り込む。

LNG原料価格(CIF)*の推移

※CIF: 日本に輸入されるLNGの平均価格



決算の実績⑥ プラットフォーム事業

1Q粗利ほぼ想定通り。足元はス[○]ース[○]の営業と保安プラットフォームの生産性向上に注力

■ 1Q(4-6月)粗利2.9億、通期12億に向けほぼ想定通り。24/1月に組織再編し、プラットフォームをセグメントとして独立させてBtoB営業本格化する。ス[○]ース[○]は9月以降、新規に数千件の外部への販売を予定、保安プラットフォームは現地に出向かないリモート対応で生産性を上げ、対応件数を増やしている。

→25/3期から新セグメントとして開示予定

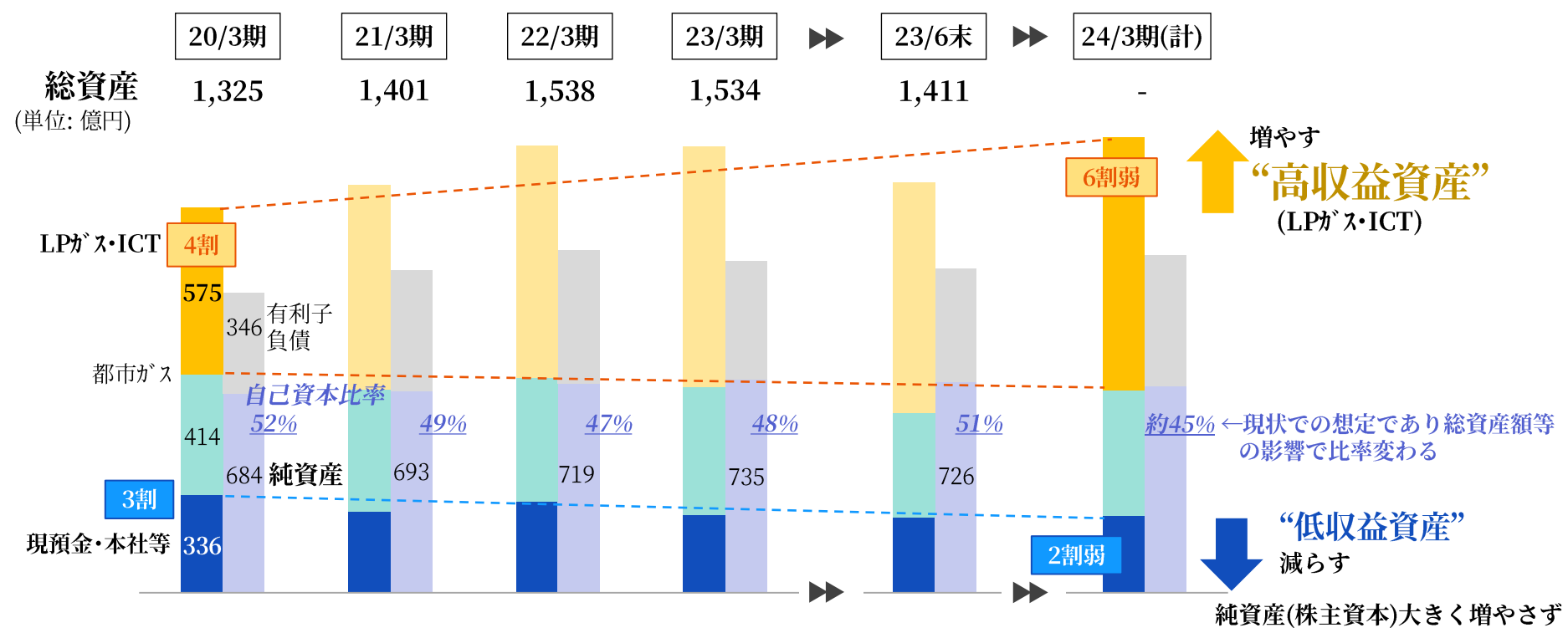
プラットフォーム(億円)	24/3期		ポイント	25/3期 (計)	26/3期 (計)
	(1Q/4-6月)	(通期計)			
粗利益	2.9	12		29	35
1. 既存プラットフォーム	2.9	12		18	24
a). LPG託送 (ス [○] ース [○] 、充填・配送)	0.1	1	ス [○] ース [○] は新規に数千件の外部への販売を予定。 充填・配送は他社へのバルク配送を小規模で開始する	4	8.5
b). 新規参入PF(新都市PF、保安PF等)、PFアプリ	2.8	11	新都市PFが利益牽引。保安PFは現地に出向かない リモート保安で対応件数を増やしている	14	15.5
2. 都市ガス託送 (*25/3期からプラットフォーム事業に分類、 現状は旧都市ガス事業に含む)	-	-		11*	11*

*P.3(計画の前提)は既存プラットフォーム粗利のみを記載

資本戦略① B/S

高収益資産を積み上げ資産収益性高めてきた。不必要な株主資本持たずROE向上させる

- 全体の資産規模大きく増やさず高収益資産(LPやICT)を積み上げ、資本収益性(ROIC)高めてきた。
- 不必要な株主資本は持たない。株主資本を増やさない一方で純利益を増やし、ROE向上させる。



純利益(億円)	77	94	100	106	24/3期: 再編に伴う特損▲25億を見込む	110
ROIC ^(*1)	7%	9%	8%	9%		11%
ROE ^(*2)	11%	14%	14%	15%		15%

純資産(株主資本)大きく増やさず
純利益拡大

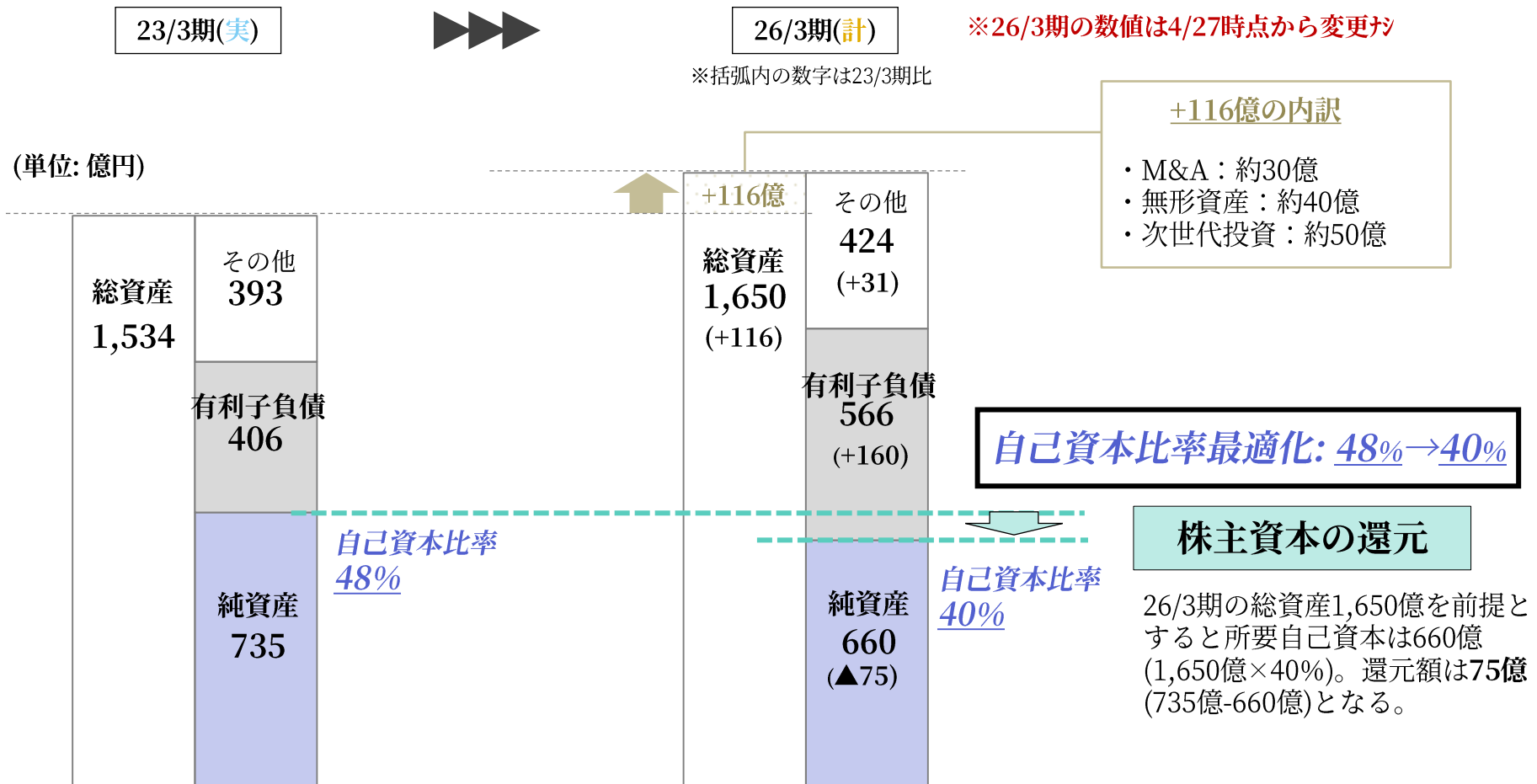
	20/3	24/3(計)
純利益	77億	110億
純資産	684億	[730]億
ROE	11%	15%

(*1) ROIC=NOPAT÷(前期と当期の“有利子負債+純資産”の平均値) (*2) ROE=純利益÷(前期と当期の純資産の平均値) (*1)(*2)小数点第1位を四捨五入

資本戦略② B/S高収益資産の積み上げと自己資本比率最適化

24/3~26/3期では、高収益資産を積み上げながら、自己資本比率を引き下げて最適化する

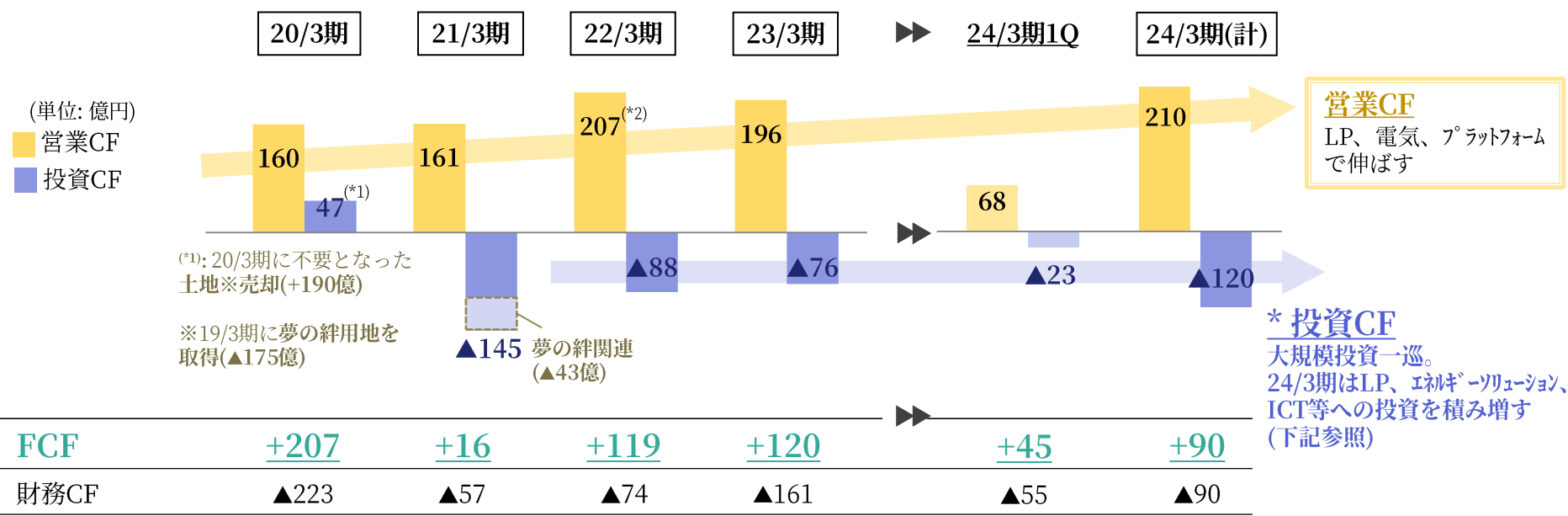
- 24/3~26/3期の3年間で、総資産は商圏買収と成長投資で120億程度の増を計画。調達サイドでは有利子負債の調達能力を再検証、自己資本比率を23/3期:48%→26/3期:40%に引き下げて最適化する。
- 26/3期の総資産1,650億のケースでは所要自己資本は660億、75億の株主資本の還元を計画する。



資本戦略③ Cash Flow

利益成長で営業CF伸長。投資CFは大規模投資一巡、高収益資産を積み増しROIC向上へ

■ LPと電気中心に利益成長して営業CFを伸長させる。投資CFは大規模投資一巡、24/3期は高収益資産(LP、エネルギーソリューション、ICT等)を積み増す。



(*)2 22/3期に一部の売上債権の回収タイミングを短縮、営業CFにプラス影響

*投資CF内訳(億円)	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期1Q	24/3期(計)
LPG	63	87	34	16	3	35 ▲41
内、LP 商圏買収	内、25	18	3	3	0	内、5 ▲10
ICT	20	15	21	29	10	35 ▲19
旧都市	54	53	43	33	12	35 ▲55
その他(投資有価証券等)	▲184*	▲10*	▲10*	▲2*	▲2*	15 -

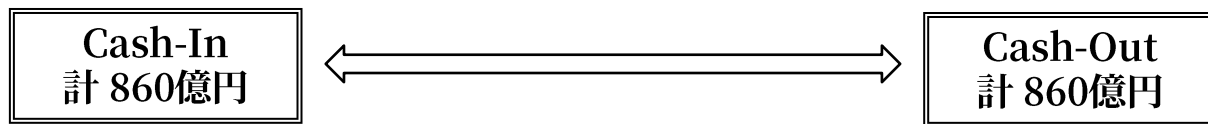
(*)24/3期(計)にはエネルギーソリューション向け成長投資含む
 (減価償却)
 ✓LPGとICT: 高収益資産、採算性鑑み、投資積み増す
 ✓旧都市: 投資徐々に減る
 (*マイナス表記はキャッシュフローにプラス)

資本戦略④ Cashの配分

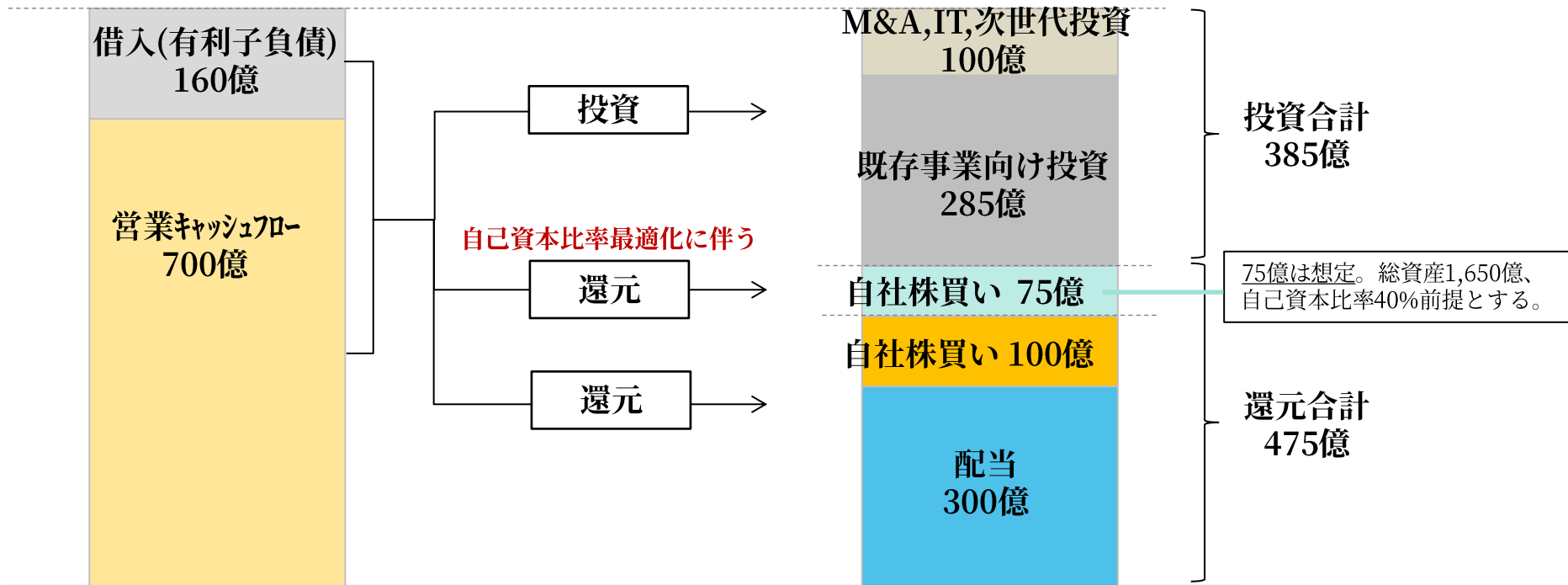
24/3~26/3期の3年間のCash-In: 860億を、投資に385億、還元に475億を配分する

■ 24/3~26/3期の3年間で860億のCash-In(営業CF700億、借入160億)を想定。投資に385億を配分、成長に繋げる。還元に475億を振り分け、還元では配当を重視、300億を配当に振り向ける。

◆ 24/3期~26/3期の合計(計) ※数値は4/27時点から変更



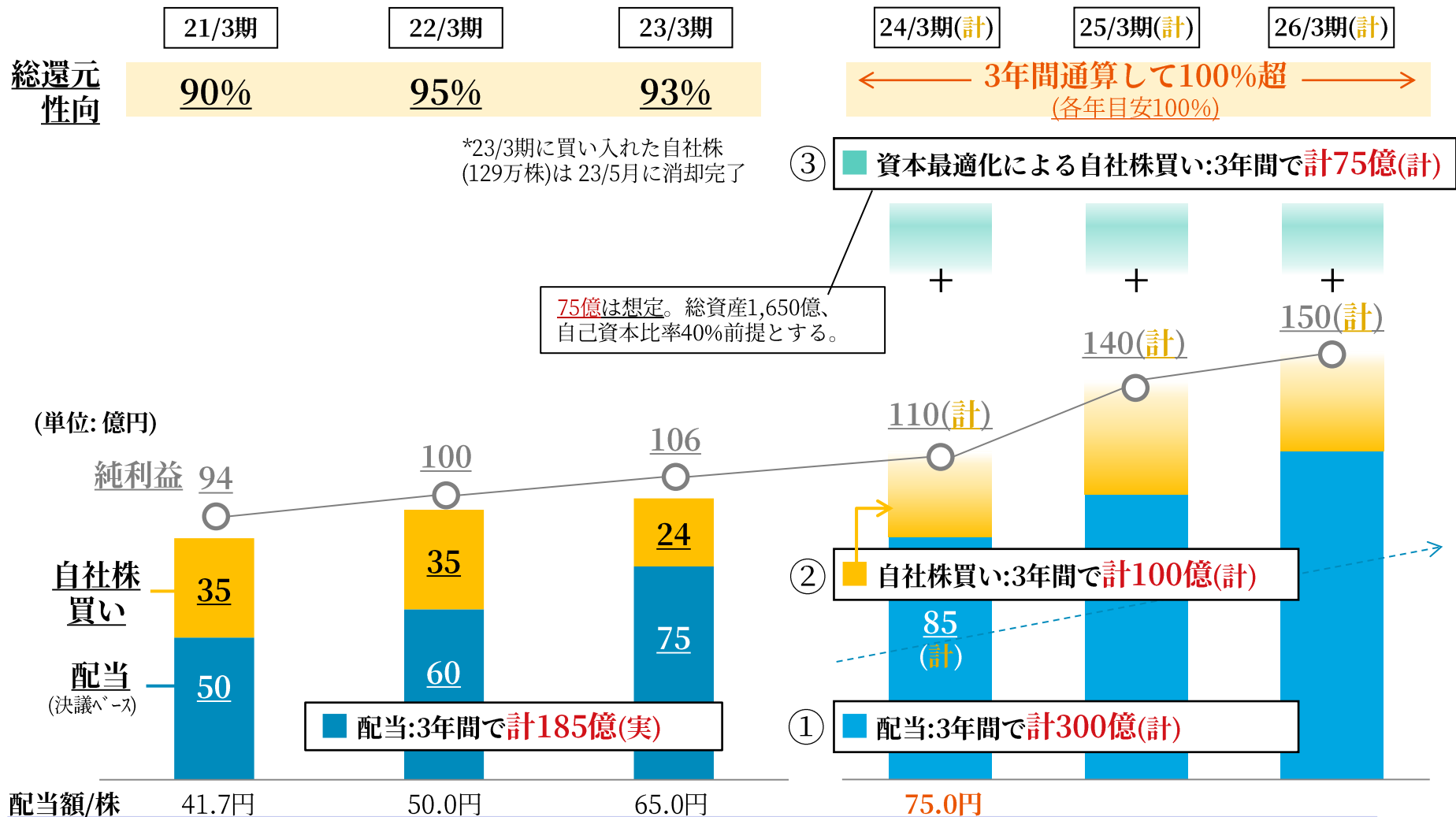
(単位: 億円)



資本戦略⑤ 株主様への還元

24/3~26/3期の3年間で総還元性向100%超を計画、配当の増加に重点を置く

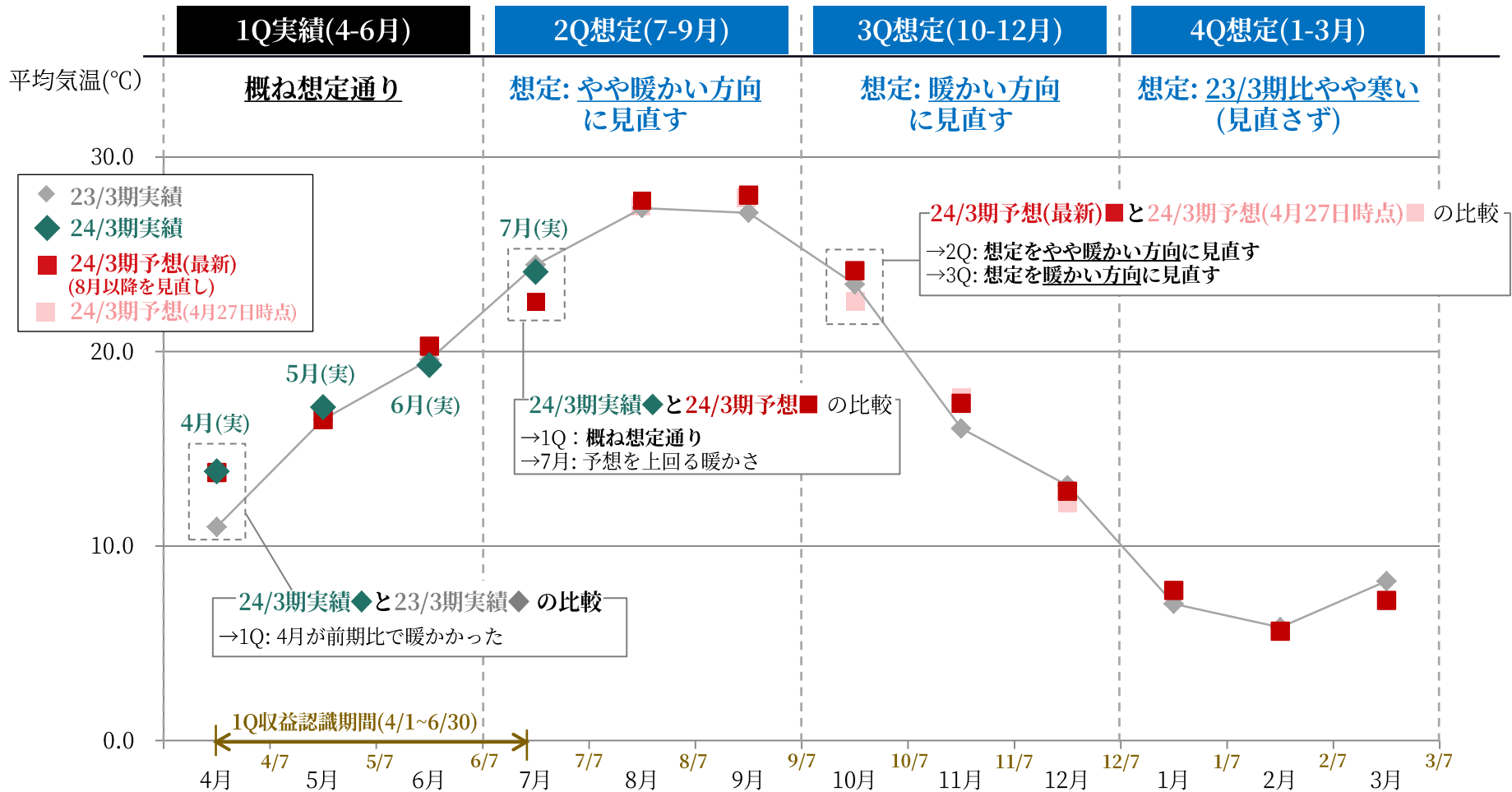
■ 同3年間は対純利益100%、自己資本比率最適化による還元含め総還元性向100%超想定。配当増に重点。24/3期は、配当85億(前期比+10億)を計画、自社株買いは30億(上限)の買入れを発表。



平均気温

1Q(4-6月)は概ね想定通り、7月は想定比暑かった。2Q-3Q想定を暖かい方向に見直す

- 1Q(4-6月)は概ね想定通り、7月は想定比で暑かった。前期比では4月が暖かかった。
- 2Qの想定をやや暖かい方向*、3Qの想定を暖かい方向*にそれぞれ見直す(*4月27日時点想定比)。



(*)1:24/3期の気温予想は、専門情報機関の情報。 (*2):気温実績は東京都の平均気温(参照元:気象庁ホームページ)

24/3期の利益計画詳細

主な変更点(4/27時点計画比): 上期は1Q実績と2Q最新気温予想考慮し、家庭用販売量を減らして見直す。
 下期は原料(CP)想定見直しに伴うLP利幅拡大を想定。

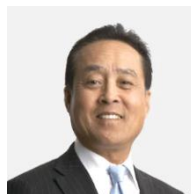
	上期 (4-9月)			コメント	下期 (10-3月)			通期計画	
	23/3 (実)	24/3(計)			23/3 (実)	24/3(計)			
		見直前	見直後		見直前	見直後	見直前		見直後
LPガス(家庭用)		(4/27公表)	(7/27公表)		(4/27公表)	(7/27公表)		(4/27公表)	(7/27公表)
粗利益(億円)	160	183	176		234	226	237	409	413
販売量(千ト)	71	71	67		115	115	115	187	182
利幅(円/kg)	226円	255円	262円	・5-7月CPが期初想定下回った	203円	197円	206円	220円	227円
単位消費量(kg/件)	87kg	86kg	80kg	・1Qは高気温等で計画届かず。2Q気温 想定をやや暖かい方向に見直す	139kg	136kg	136kg	222kg	216kg
LPガス(業務用)									
粗利益(億円)	16	16	12	・1Qは逆スライド [※] 影響(原料下げ局面で利益 にマイナス)で利幅縮小	17	21	23	38	35
販売量(千ト)	55	56	54		66	64	64	120	118
旧都市(家庭用)									
粗利益(億円)	57	61	59		74	75	74	136	133
販売量(千ト)	43	42	40		68	68	67	110	107
利幅(円/kg)	131円	146円	148円	・2Qスライド [※] 影響(プラス)を新たに織り込み	109円	109円	109円	123円	123円
単位消費量(kg/件)	115kg	113kg	105kg	・1Qは高気温等で計画届かず。2Q気温 想定をやや暖かい方向に見直す	176kg	177kg	175kg	290kg	280kg
旧都市(業務用)									
粗利益(億円)	14	14	14		15	15	15	29	29
販売量(千ト)	86	85	86		93	93	93	179	179
新都市(主に家庭用)									
粗利益(億円)	7	12	13		16	16	16	27	28
販売量(千ト)	38	38	36	・1Qは高気温等で計画届かず。2Q気温 想定をやや暖かい方向に見直す	51	50	49	87	86
利幅(円/kg)	19円	31円	35円	・2Qスライド [※] 影響(プラス)を新たに織り込み	31円	31円	32円	31円	33円
電気(主に家庭用)									
粗利益(億円)	12	16	19		17	29	29	45	48
販売量(GWh)	582	664	632	・1Qは気温等の影響で単位消費量減	715	879	879	1,544	1,511
利幅(円/kWh)	2.1円	2.4円	3.0円	・7月利用(8月検針)分から料金改定	2.4円	3.3円	3.3円	2.9円	3.1円

新体制のご紹介

23/6月総会で社外取締役、社外監査役メンバーが変更。女性取締役(社外)が就任

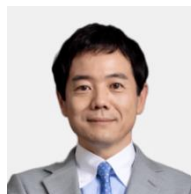
■ 経営経験のあるメンバーが就任(里中氏、折原氏)。取締役6名のうち社外2名、女性取締役が就任。社内取締役は4名のうち2名が当社以外でのビジネス経験を有している。

取締役(社内4名、社外2名)



和田 眞治
取締役会長執行役員

現に所有する普通株式：170,965株
潜在的に所有する普通株式：191,949株



柏谷 邦彦
代表取締役社長執行役員

現に所有する普通株式：96,700株
潜在的に所有する普通株式：52,044株



渡辺 大乘
代表取締役専務執行役員
営業本部長 都市ガスグループ 管掌

現に所有する普通株式：86,600株
潜在的に所有する普通株式：62,241株



吉田 恵一
代表取締役専務執行役員
エネルギー事業本部長

現に所有する普通株式：3,400株
潜在的に所有する普通株式：18,186株



山田 剛志 新任
社外取締役

成城大学大学院教授
弁護士、前当社社外監査役



里中 恵理子 新任
社外取締役

7アングルグループ 執行役員兼
CHRO(現任)

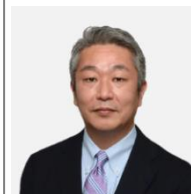
<株主総会前役員の状況>

- ◆ **社外取締役: 2名**
 - 井出 隆氏(公認会計士) → 退任
 - 河野 哲夫氏(銀行出身者) → 退任

- ◆ **社外監査役: 3名**
 - 山田 剛志氏(弁護士) → 社外取締役に
 - 中嶋 克久氏(公認会計士) → 変更メンバー
 - 五味 祐子氏(弁護士) → 退任

※社内取締役4名、社内監査役1名は変更メンバー

監査役(社内1名、社外2名)



真中 健治
常勤監査役

現に所有する普通株式：13,500株



中嶋 克久
社外監査役・公認会計士



折原 隆夫 新任
社外監査役

元 野村不動産、野村不動産
HDの取締役、監査役等

※保有株式数は2023年3月31日時点